

劉賓 編選

『優素甫・哈斯・哈吉甫《福樂智慧》箴言選粹 中/英/日/維文對照本』

(Liu Bin, *Fule Zihui Zhenyan Xuancui*)

新疆科學技術出版社 2006.4 ウルムチ

1

本書は、ユースフ・ハース・ハージブの有名な『クタドゥグ・ビリグ』から箴言的な内容の詩行を抜粋してテーマごとに配列し、中国語、英語、日本語、ウイグル語（現代ウイグル語）に訳したものの一冊に収めている。中国語以外の書名は、それぞれ Precept of Wisdom of Royal Glory in Highlight:『幸福を与える知恵』箴言の抜粋；«Qutadgu Bilik»tiki hekmätlärdin tallanma となっている。総ページ数は示されていない。左開きの扉、内扉に続いて、「編選説明」と題された中国語の序文(pp.1-4)、Compiller's Description と題された英語の序文(pp.5-10)、「えり抜き編集の説明」と題された日本語の序文(pp.11-16)があり、これらはいずれも編者劉賓 Liu Bin の名で書かれている。次いで中国語、英語、日本語による目次がそれぞれあって、その後に中国語訳(pp.1-40)、英語訳(pp.41-92)、日本語訳(pp.93-140)の順で収められている。一方ウイグル語部分は本書の右扉から始まり、Liu Bin / Qäysär Qäyyum 訳による序文(pp.1-8)、目次、訳文(pp.1-47)となっている。

2

中国語序文(p.2)によれば、本書に収められた中国語訳は 1986 年出版の郝闇中、張宏超、劉賓による全訳本によるものであるという。英訳の訳者名には謝旭升の名があげられている。日本語訳は「中国語版からの訳文」となっており、協力：小島康誉、翻訳：胡平という名が見える。ウイグル語訳は、tallap tüzgüči : Liu Bin (劉賓) とあるだけで訳文の出典は示されていないが、1984 年に北京で出版されたウイグル語訳とほぼ一致しており、この版に基づくものと見られる¹。

このウイグル語訳文は、原文の形式に近づけた一種の韻文訳である。例えば原文の第 128 対句

bu köktäki yulduzlar bir anča bäzäk / bir anča qulavuz bir anča yäzäk (p.64)²

短長長 短長長 短長長 短長 / 短長長 短長長 短長長 短長

に対して、訳文では

köktiki yultuzlar bäzisi bezäk / yol başlar bäzisi, bäzisi yezäk (p.1)

1 新疆社会科学院民族文学研究所編『福樂智慧』(北京、民族出版社)。両者の間には、ウイグル語正書法の変更を反映した綴り字の違いが見られる。

2 以下、原文の引用は註 1 であげた北京版によるが、転写方式をより一般的なものに改めた。

のように同じ音節数（1 1×2）を用い³、かつ原文同様に句末で押韻させている。ただし原文における音節の長短の配列は保たれていない。

3

本書に収められた抜粋は9つの章に分けられており、各章は『クタドゥグ・ビリグ』の全体から章のテーマに関連した詩行を選び出して並べたものといえる。例えば、1章「宇宙と万物の法則を論ずる」では、128-143, 1049-1050, 1052-1055, 1065-1066, 1086-1087, 1182-1183, 4620-4630, 4632-4634, 4982, 4984-4985 の計45対句が訳出されている。以下、2章「知識と知恵を論ずる」(51対句)、3章「言葉遣いの損得と利害を論ずる」(38対句)、4章「善行と人徳を論ずる」(77対句)、5章「治国の道を論ずる」(71対句)、6章「才能ある人材を起用することを論ずる」(44対句)、7章「正義と法度を論ずる」(30対句)、8章「子女に対する教育を論ずる」(26対句)、9章「財産の応対を論ずる」⁴(27対句)となっており、合計409対句すなわち全体の6パーセント強の訳文が収められていることになる。なお原文中の四行詩の翻訳（例えば1章

では1049-50, 1182-83, 4632-33, 4984-85）は、中国語、英語、ウイグル語訳では太字で印刷されることで他の部分と区別されているが、日本語訳ではそのような処置はとられていない。

4

本書に特に日本語訳が含まれられた経緯については不明であるが、日本語による序文中(p.15)に「更に有難いことに、カシュガル部署はわざわざ日本語版の出版を申しこんだ」とある。また同じく序文の最後の部分(p.14)に「遠路はるばるカシュガルへお越しになった外国観光客には日本人が一番多いそうである」とあり、あるいはそのような日本人一般のカシュガルへの関心が考慮された結果であるのかもしれない⁵。その日本語訳であるが、序文も含めてまず日本語の文章としていさか稚拙で読みづらいと言わざるを得ない。以下にいくつか例をあげる。

「『幸福を与える知識』は簡単な物語性の筋をもつ長詩である。そのストーリーの骨組みと表現の手法は古代演劇の特徴をもち、その中に含んだ知識的なものはそれに「百科全書」の性質と価値をもたらし、その文学的なテクニックはウイグル古典詩学伝統の基礎を定めたなどという

3 ただし訳文での音節数には一部ばらつきも見られる。例えば第274対句(p.15)では13音節×2、第413対句(p.19)では10音節+11音節である。

4 他の言語による章題は、それぞれ「論対待財富」/On wealth/Mal-dünyaǵa muamilä qiliš bayanidaとなっている。

5 ちなみに評者はこの本を、カシュガル市内のユースフ・ハース・ハージブ廟にある売店で購入した。

評価があるにもかかわらず、それをウイグル文化史上の一経典的な著作と見なすのはそれが古代「シルクロード」の付き物で、古代東西文明交流史上の得がたい思想成果であるからという指摘もある。」(pp.12-13)

「4620 人類の人文の祖の後世と自称する以上、涼暑冷暖の所在を見分けるはずだ。」(p.96)

□原文 kiši män tägüči apa oğlanı (p.958)は、「人であると自ら名乗る、人類の父祖の子孫は」といった意味であり、英訳では‘The self-claimed offspring of mankind’(p.44)、ウイグル語訳では‘kiši män degüči adäm balisi’ (p.5)といずれも正しく訳されている。

「171 何かあったら、よどみなく弁舌しては助けとなることがすこしもないけれども、貝のように口をふさいでは、成し遂げにくくなる。」(p.105)

「1667 英知のアラーよ、私は人間に有害して無益なものを三つ挙げて説明できます。」
(p.116)

□中国語訳「英主啊」(p.20)を「英知のアラーよ」と訳したもののようにあるが、原文 ay älči unur (p.378) 「おお幸いなる国主よ」はアッラーではなく国主への呼びかけである。英訳‘May the king’s wisdom bear on this question!’ (p.66)、ウイグル語訳‘äy qudrätlik xan!’ (p.24)はともに正しい訳と言える。

「1487 いまのところ、父親のわたしは逝去するが、無邪気な孤児は世の中で遊びにふけっていつも帰りたくないである。

1489 あなたには彼が道徳と学問を勉強するようにさせることをお頼する。彼には才徳をもつ一人前になさせるように。」(p.135)

□「世の中で遊びにふけって」云々が意味不明である。中国語訳は「無心智的孤兒在世上流連」(p.36)。原文は kičig qaldı oğlum yätim ögsüzün (p.340) 「わが子は幼くして孤児として残される」という意味である。英訳‘and he, my son, is left an orphan at a tender age’ (p.87)、ウイグル語訳‘kičik qaldi oğlum yetim – öksüzün’ (p.43)はともに適切な訳である。このくだりは、大臣 Ay Toldı が病を得て死去するにあたり、国主 Kün Tuğdı に自分の息子 Ögdülmış を託す場面に含まれるものである。この例からも明らかのように、本書のような箴言の抜粋においてはそれぞれの詩句がどのような文脈に位置しているのかがわからないという欠点が生じる。もし本書が日本の一般読者を対象とするのであれば、作品全体の構成や内容についてもう少し詳しい情報が必要であったように思われる。